

会 議 録

会 議 名	第39回野田市市民活動支援センター運営協議会
議 題	<p>(1) 令和2年度市民活動支援センターの登録状況について</p> <p>(2) 令和2年度市民活動支援センターの利用状況について</p> <p>(3) 市民活動団体との協働のまちづくりの実態調査について（中間報告）</p> <p>(4) 令和2年度市民活動支援センターの事業実施計画（第2回変更）について</p> <p>(5) 令和2年度野田市市民活動団体支援補助金について</p> <p>(6) 令和3年度野田市市民活動団体支援補助金について</p>
日 時	令和2年10月21日（水）午後2時から午後3時25分まで
場 所	野田市役所高層棟8階 旧レストラン会議室
出 席 委 員	<p>会 長 竹澤 勇司</p> <p>副会長 立山 喜弘</p> <p>委 員 武智 多恵子、加藤 満子、岩井 勝治、渡邊 勝男、 北倉 恵美子、加藤 眞智子、藤掛 忠雄、芝田 栄太郎</p>
欠 席 委 員	無し
事 務 局 等	<p>市民生活部長 牛島 修二</p> <p>市民生活課長 渡邊 正登</p> <p>市民生活課長補佐 大野木 亮二</p> <p>市民活動支援センター長 釜田 正雄</p> <p>市民活動支援センター主任主事 関口 一夫</p> <p>コーディネーター 荒井 ハツヨ、嶋田 由花、半澤 ひとみ</p> <p>支援補助員 向佐 美知子</p>
傍 聴 者	無し
議 事	第39回野田市市民活動支援センター運営協議会の会議の概要は、次のとおりである。

1 開会

事務局から開会を宣言。

会議の成立について報告。

会議録作成のため、録音をすることについて了解を得た。

傍聴人の申出がなかったことを報告。

2 市民生活部長挨拶

牛島市民生活部長挨拶

3 議事

(1) 令和2年度市民活動支援センターの登録状況について

(資料(1)-1、(1)-2)

議長(竹澤会長)

議題(1)について説明を求めた。

向佐支援補助員

議題(1)「令和2年度市民活動支援センターの登録状況について」を説明した。

議長(竹澤会長)

議題(1)について、委員に意見を求めた。

芝田委員

ペットと言うと私の感覚だと犬や猫を想像するが、野田市では、それ以外に今どう
いうものがペットとしているのか。分かる範囲で結構です。

向佐支援補助員

現在、センターに登録のあるものとしては、猫の団体と犬の団体である。

議長(竹澤会長)

他に意見がなければ議題(1)については了承で良いかを問うた。

《異議無し⇒了承》

(2) 令和2年度市民活動支援センターの利用状況について

(資料(2)-1、(2)-2)

議長(竹澤会長)

議題(2)について説明を求めた。

荒井コーディネーター

議題（２）「令和２年度市民活動支援センターの利用状況について」を説明した。

議長(竹澤会長)

議題（２）について、委員に意見を求めた。

藤掛委員

相談件数の内訳について、６番の魅力発信事業はどういうものか。

釜田センター長

魅力発信事業については、野田市の魅力を市内外に発信するという事で、新しい魅力推進課ができています。そのメイン事業が魅力発信事業で、これは個人でも団体でも、野田市の魅力を発信するためのイベントや講座などを市として採択して、魅力発信事業として冠をつけて実施したり、それに対する助成をしたりということをやっている。市民生活課の方で担当している市民活動団体とは少し違う。それについても、ホームページや市報で案内はしているが、センターとしても丁寧に御案内していこうと考えています。

芝田委員

コロナ禍で、８階の旧レストラン会議室の使用人数が３６名。国の方は部屋の利用率を少しずつ上げている。しかし、野田市はまだ改正していない。なぜ改正しないのか。こういうところが３５名ほどだと、４０名とか５０名の団体はなかなか借りられない。ここで聞くのが場違いという感じもするが、分かる範囲で教えていただきたい。

釜田センター長

人数の緩和については、先日コロナ対策本部会議の中で、市の方針として、文化会館や櫛のホールの小ホールについて、コロナ対策をしっかりと主催者が行って、教育委員会が適正と認めた場合に限って、文化会館が１２００人くらいまでとしている。その際の条件として、大きな声での話をしない、演劇を見たり、講演を聴いたりするものの場合としており、今教育委員会が具体的に基準を詰めていると聞いている。この８階旧レストラン会議室や他の会議室については、黙って作業するのではなく、会議や講座、研修会などいろいろな話をするため、当然マスクをつけて、２メートルのソーシャルディスタンスをとりながら実施しているが、現状の使用人数として聞いている。

牛島市民生活部長

今センター長の方から説明した通りですが、基本的にコロナ対策本部会議の中でも、委員がおっしゃるように国あるいは県が基準を緩和している中で野田市も同様に緩和していいのか。市民の皆さんの健康、生命、財産守ることが第一ということ考

えた中で、野田市は、当初から感染状況等も見ながら、より厳しい対応をしていこうとの考えである。市長もその考え方は変わっていないと認識をしている。一方では、経済も回さなければいけない、あるいはこういった市民活動についても活動していただくことが必要であるため、市内の感染状況などを見ながら今後検討されていくものだと考えている。御理解をいただきたい。

立山副会長

先ほど、相談件数の内訳の報告がありました。その中で、登録申請とパソコンの相談件数が減っている。これは、もう行き渡ったという意味なのか、それとも活動を自粛しているということなのか。補助金、助成金の関係はプラスになっているということは、基本的には活用のニーズがあるということによいか。それからもう一つ、登録団体の活動分類の中で、他団体との連携、助言、援助等が 33 団体であるが、それを主にしているのが 1 団体。もしこの主に活動されている団体にいろいろ御相談をすれば、アドバイスをしてくれる団体とみてよいか。

荒井コーディネーター

相談件数については、登録申請が去年は 5 件で今年は 0 件ということは、偶然この期間が 0 件ということだと認識している。補助金、助成金は、他のことができないということもあって、ここに力を入れてきた結果ではないかと考える。パソコンの方で、11 件が今年は 3 件ということは、コロナの関係で団体がなかなか活動できないということもあり、相談も減っていると理解しています。

釜田センター長

活動分類の他団体との連携については、本日お渡しした令和 2 年度センター登録団体紹介の 9 ページに、五十音順に、登録団体の名称と活動分類が書いてある。星印が書いてあるものが主分類になる。それ以外については、重複してこういうこともやっているという従の活動という形になっている。先ほど立山副会長からお話の他団体との連携については、ボランティア連絡協議会の主の活動が他団体との連携、助言、援助等、そのほかの従の活動として保健、医療、福祉、社会教育、まちづくり、こういう活動分類となっている。もう一つ、障がい者団体連絡会の主の活動は、保健、医療、福祉、従の中の一番下に、他団体との連携、助言、援助等があり、この団体については複数の障がい者団体の集合体という形になっており、当該連絡会の考え方で、主を他団体との連携にするか、個々の障がい者団体はそれぞれ福祉についてやっている団体であるため福祉にするか判断が分かれる。そういったことから主と従の活動を両方併記することによって、活動内容が少し分かりやすくなるのではということこ

のような表現をしている。主の活動分類が他団体との連携となっている団体に行けば、他団体との連携についてのアドバイス、助言をしてくれるということではない。

渡邊委員

先ほど団体の立ち上げのところで、若いグループ、新しい分野が増えてきたという話があった。コロナ禍の自粛の環境の中で前向きに活動しているのだと感じたのですが、どんな形でセンターとつながってきたのかを教えていただきたい。

荒井コーディネーター

突然センターに来るという場合もあるが、登録している団体から話を聞いて訪問してきたということが多い。

釜田センター長

今回、新規で登録されたペットの団体については社協のボランティアセンターからの紹介ということで承っている。荒井コーディネーターから説明したように、知り合いの団体からの紹介というのが基本であり、突然飛び込んでくるということは少ない。

議長（竹澤会長）

他に意見がなければ議題（2）については了承で良いかを問うた。

《異議無し⇒了承》

（3）市民活動団体との協働のまちづくりの実態調査について（中間報告）

（資料（3））

議長（竹澤会長）

議題（3）について説明を求めた。

関口主任主事

議題（3）「市民活動団体との協働のまちづくりの実態調査について（中間報告）」を説明した。

議長（竹澤会長）

議題（3）について、委員に意見を求めた。

加藤（満）委員

地区社会福祉協議会がある。そこでは様々なサロン、地区社協まつり等が行われているが、こういった事業はカウントされていないのか。

関口主任主事

本来はカウントできるものだと思っている。今回、各課からの報告によるものだ

が、その報告に上がってきていないのが現状である。もともとNPO団体が45団体あるため、もっと増えてくるのが当たり前だと考えている。これからの作業としてそういった細かい調査を行いたいと考えている。

藤掛委員

社協のボランティア等はカウントされないのか。

関口主任主事

協働の事業の一つだと思っているが、今回各課の回答で上がってきていない。もう少し詳しく調べたい。

釜田センター長

基本的に県が取りまとめているのは市が実施している事業のことであり、社会福祉協議会は、社会福祉法人として別に実施しているものである。ボランティアセンターで活動されている方は、当然その社会福祉協議会の一員であり、各地区、あるいは全体の事業の中でやっている。この調査とはまた別次元で調べないと明らかにならないと考える。飽くまでも、野田市としての調査なので、ボランティアセンターでやっているボランティアは少し違う。野田市が社会福祉協議会などに委託をしている事業の中には協働事業としてカウントできるものもあるかもしれないことから、今回報告されなかったものの中で、位置付け等も含めて整理していかなければならないと考える。社協のボランティアセンターと支援センターが一体で、連携して整理していきたい。

加藤（満）委員

市の取組ということだが、公民館などが行っている様々な活動はカウントされているのか。今日午前中に東部公民館で、野田市手をつなぐ親の会で講演をさせていただいている。公民館主催だが福祉のまちづくり講座の一環として行っている。カウントされているか。

関口主任主事

今回は、各課から回答があった事業を表に出しただけである。公民館事業についても、今回報告が上がってきていない現状であるため、そこを追加調査させていただきたい。

釜田センター長

私はこの表を見たときに、事業が少ないとすぐ分かった。東葛も少ない。県全体も少ない。先ほど関口が説明したように、県の担当も、調査要項はあるが、そこまで細かく深く市町村を指導して吸い上げをしていない。野田市だけではなくて、他の市も

県も同レベルである。そういう捉え方ではいけない、実態を明らかにしようという当初の目標から、これから各担当課に追跡の調査、例えば、他の市町村でやっている取組はどうですかという形で問いかける。当初の予定では市民活動団体からも聞き取りしようと考えていたが、現状で団体から聞き取りを行うと混乱してしまうため、今回は、市の担当課の調査をもとに追加調査を実施して、次回に報告とする。その実態を踏まえて、次の展開として市民活動団体に伺った方がいいのではないかと考えている。これから各担当とも詰めていかなければならない。

藤掛委員

数字を正確に把握できたとして、どういう動きを考えているのか。

関口主任主事

この協働事業を進める上での一番の課題は、市の担当者の意識が低いということである。他市との差で野田市が少ないのであれば、皆さんと協議しながら事業を増やしていきたいと考えている。

藤掛委員

この数字を出すことによって何をしようとしているのか。

関口主任主事

これをきっかけとして、市職員の意識改革に取り組んでいけたらと考えている。

岩井委員

この調査を千葉県は何に使おうとしているのか。私は、今はコロナで止まっているけれども、国がやろうとしている地域協働事業、自助、共助、公助、多分そのデータに使おうとしていると思う。こういうことは担当者が正にどれだけ把握しているかなのだが、実態をつかむには何回か調査を行って、積み重ねていかなければ正確にはつかめない。ある程度時間を見ないといけないのではないか。恐らく共生社会のデータに使おうとしていると考える。

竹澤会長

NPOボランティアサポートセンターから市民活動支援センターとして今まで多くの会議をしてきた。本格的にこの会議に協働のまちづくりの実態調査を取り上げたというのは初めてである。そういった意味でも、今回取り上げたということは、スタートに立っているということだと思う。協働の概念というのは1970年代後半からまちづくりの取組に不可欠なものとして、協働の意味が改めて確認されたのが、阪神淡路大震災だった。そういったことから将来の野田市の市民活動団体も今回センターが取り上げたということで、大きな影響を及ぼすものだと考えられるのではないか。協働

に関しては、市町村によっても担当者の捉え方に差があり、まだ安定していないということもあり、一部の団体との協働が推進されているということが実態ではないか。大事なことは、センター、職員の皆様方が、大変な思いをしながら野田市の発展のために尽くしていただいている現状の中で、センターとして今後の野田市と市民活動団体との協働について、どんな役割が大事なのか、どのような役割を担っていくことがベストなのかというものに対する考え方、御意見を伺えればと思います。

釜田センター長

市民活動団体との協働につきましては、野田市の総合計画に位置付けられており、重要な施策と考えている。先ほど、関口主任主事から説明したように、令和2年度の事業を、新規にこの事業計画に位置付けて進めているところである。今後は、まず市の担当課へ、ボランティア、協働の位置付けも含めて市民活動団体とのつなぎ役として、積極的に協働のまちづくりを推進していきたいと考えている。野田市として、実態調査を行おうと思った当初の目的である協働の実態を把握することをまず前提に考えて、数もそうだが、やはり中身について実態の把握に努めたい。活動分類、地域などいろいろ考えさせられるところはあると思うが、実態をできるだけ把握するように市の担当部局と調整をしながら、今後、市民活動団体とのつながりを持っているところ、新たなところも含めて推進をしていきたいと考えている。

議長（竹澤会長）

他に意見がなければ議題（3）については了承で良いかを問うた。

《異議無し⇒了承》

（4）令和2年度市民活動支援センターの事業実施計画（第2回変更）について

（資料（4））

議長（竹澤会長）

議題（4）について説明を求めた。

釜田センター長

議題（4）「令和2年度市民活動支援センターの事業実施計画（変更）について」を説明した。

議長（竹澤会長）

議題（4）について、委員に意見を求めた。

各委員

特に無し

議長（竹澤会長）

意見がなければ議題（４）については了承で良いかを問うた。

〈異議無し⇒了承〉

（５）令和２年度野田市市民活動団体支援補助金について

（資料（５））

議長（竹澤会長）

議題（５）について説明を求めた。

渡邊市民生活課長

議題（５）「令和２年度野田市市民活動団体支援補助金について」を説明した。

議長（竹澤会長）

議題（５）について、委員に意見を求めた。

北倉委員

是非変更申請していただき、無事に内容が全うされることがよいと思う。頑張ってもらいたいと思う。

武智委員

説明いただいた内容でよいのではないか。

加藤（満）委員

せっかく決定された補助金で、さあ事業を行おうと思った矢先のコロナ騒ぎですので、是非有効に活用できる方向性も大切と思う。しかし、例えば私たちのような手をつなぐ親の会といった任意団体に対して、こういう活動をしますからと認められたものについて補助金を頂戴しているが、今回は行事等ができなかった。大きな会合はできないし、バス移動ができないという中で、できなかった分について今年度は補助金を返す。そして改めて新年度の申請をするという形をとっている。これも至極当然のことだと私たちは納得しています。せっかくお金を頂いたのだから、そのまま残して、次年度にまた次の申請を上げていくということは少し違うのではないか。次年度は改めて計画を立てて、またそれを認めていただくという形をとればよいのではないか。そういう考え方に立ったとき、確かに講師謝礼と書いてあり、講演会などできていないところがある。２団体と説明されたが、その他の団体でも講演会ができていない実態は知っている。そういった団体はどうしているのかと思う。よさこい躍りでもお面は買えるだろうが、いろいろな集まりはできなかったし、踊りそのものもつい最近まで、外で個人的でしか練習できなかったりという状況です。考え方が自分でもよ

く分からない状況です。以上です。

渡邊市民生活課長

御意見を各委員の方から頂いたのですが、センターの方で活動の内容について調査をしており、コロナの関係でどうしても補助事業ができなかった団体は2団体になっている。まめ塾につきましては、レンタルアームの賃借料があって、どうしても密な状況で行うため活動できない。スクエアダンスにつきましても、やはり接触するため活動できない。その他の団体につきましては、補助対象事業は実施できるということであるため、こちらの2団体の救済措置ということでご説明させていただいた。

釜田センター長

2団体以外は今年度計画通りできる見込みである。今加藤委員がお話しの講演会や講座関係は、他のところでは、実際に開催しているところもある。講演会は室外開催やWeb開催という形で開催しているといった話も聞いている。補助対象事業の実施状況についても、毎月のように進捗状況を報告していただき、今整理をしている。最終的にその実施の有無も含めて、中身について精査しており、間違いなく実施したもののについては補助対象とし、実施していないものがあるとすれば補助対象外とするなど、しっかりとチェックをしていきたい。

議長（竹澤会長）

他に意見がなければ議題（5）については了承で良いかを問うた。

《異議無し⇒了承》

（6）令和3年度野田市市民活動団体支援補助金について

（資料（6））

議長（竹澤会長）

議題（6）について説明を求めた。

渡邊市民生活課長

議題（6）「令和3年度野田市市民活動団体支援補助金について」を説明した。

議長（竹澤会長）

議題（6）について、委員に意見を求めた。

各委員

特に無し

議長（竹澤会長）

意見がなければ議題（6）については了承で良いかを問うた。

《異議無し⇒了承》

大野木市民生活課長補佐

次回の運営協議会の日程について、1月25日（月）か26日（火）のいずれかで開催したいと考えている。時間と場所は今日と同じ午後2時から旧レストラン会議室で開催したい。また、野田市市民活動団体支援補助金審査会についても運営協議会終了後に開催したいが、都合はどうか。

議長(竹澤会長)

次回の運営協議会及び野田市市民活動団体支援補助金審査会の日程について、委員に問うた。

《各委員に確認》

委員に問うた結果、1月25日（月）に決定する。

大野木市民生活課長補佐

議題については、支援センターの登録状況や利用状況、令和3年度事業計画案などを予定している。

議長(竹澤会長)

会議の閉会を宣言した。